

甲斐市立 竜王中学校 自己評価書

令和2年1月27日(月)作成

校長 「 今村 弘樹 」

記述者 (教頭) 「 坂本 公彦 」

校訓『自立創造』

学校教育目標

- ◎ 自ら学ぶ生徒 (知育)
- ◎ さわやかで心豊かな生徒 (徳育)
- ◎ たくましく生きる生徒 (体育)

生徒の努力目標

- 確かな学力は「生きる力」……授業へ真剣に主体的に取り組もう。
- あいさつは「心の交流」……さわやかな挨拶をかわそう。
- 継続は「力」なり……根気よく心身の鍛錬に取り組もう。

- | | |
|---------------|--------------|
| ・自ら学ぶ授業にしよう | ・思いやりの心を育てよう |
| ・学校や仲間のために働こう | ・部活動を活発にしよう |

学校経営方針

- (1) 甲斐市教育振興基本計画「創甲斐教育」を具体化した学校教育を推進する。
- (2) 学習指導
 - ① 一人ひとりの能力や適性を的確に把握して、個に応じる指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。(ユニバーサルデザインの視点での授業改善)
 - ② 生徒の意欲や体験的な活動を重視し、既習事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める。(主体的・対話的で深い学びの実現)
 - ③ 教科への興味関心を高め、学習意欲を引き出し、家庭学習に自主的に取り組む生徒を育てる。(スタンバイ学習の推進)
- (3) 生徒指導
 - ① 規範意識をはぐくみ、基本的な生活習慣の確立を図る。
 - ② 生徒一人ひとりを適切に理解し、好ましい人間関係をつくる。
 - ③ 学校、家庭、地域、関係機関と密接な連携をとった生徒指導を推進する。
 - ④ 問題行動について共通理解を持ち、学校全体として対応する。
 - ⑤ 不登校生徒に対する理解を深め、連携を密にし、生徒に寄り添った指導を図る。
 - ⑥ いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。
- (4) 道徳指導 …「道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる」
 - ① 規範意識としなやかな心の醸成を図る。
 - ② 考え議論する道徳授業を通し、道徳的実践力の育成に努める。

(5) 特別活動

<学級活動>

- ・望ましい学級集団づくりを通して、よりよい人間関係を築く。(Q—Uの活用)
- ・一人ひとりが出番と居場所のある学級づくりを進める。
- ・自己の特性に気づかせ、意欲的な生活態度と将来の展望を育む。

<生徒会活動>

- ・学校生活の充実のため、自治的集団的活動を展開する。(委員会活動の推進)
- ・生徒の自主性、協調性を育成し、生徒相互の人間関係づくりを進める。
- ・校内、地域のボランティアを奨励し、母校、地域に貢献する態度を育てる。

<学校行事>

- ・学校生活をより豊かにする体験的活動を展開する。
- ・合唱活動を推進し、明るい声が響き合う学校づくりに努める。

(6) 保健・安全指導

- ① 心身の健全な発達を図り、衛生的な環境づくりに努める。
- ② 学校事故の防止、交通安全指導の徹底に努める。
- ③ 自他の命の大切さ、安全意識の向上について、計画的・系統的に指導し、自ら災害や危険から身を守る態度を養う。
- ④ ラジオ体操を奨め、体力づくり一校一実践を推進する。

(7) 給食指導

- ① 給食指導を通して、食に対する基本的知識を身につけさせる。
- ② 望ましい食事マナーを身につけさせる。(服装、配膳、片付け、あいさつ等)

(8) 情報教育

- ① 情報リテラシーを身につけさせる。
- ② ネット利用のマナーや危険性の理解、正しい判断、自身を律する行動など、情報モラル教育を推進し、安全に情報メディアを利活用できる力を育成する。

(9) 国際理解教育

- ① 諸外国の歴史や文化等について理解をすすめ、我国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ② キオカック(アメリカ)、タラマラ(オーストラリア)との国際交流を進める。

(10) 環境教育

- ① 環境美化、環境保全、資源の有効利用などについて、主体的に考え行動できる資質を培う。
(パンジー等の植栽、牛乳パックやアルミ缶の回収など体験活動を推進)

(11) 特別支援教育

- ① あすなろ、かしのき、さくらの特別支援学級担当者相互、他の職員、保護者との連携を進め、一人ひとりのニーズに応じた教育に努める。
- ② 自立心を養い、円滑な人間関係を築けるように育てる。

(12) 心を耕す読書教育

- ① 心を豊かにする読書指導を積極的に行う。(朝読書の効率的な活用)
- ② 授業で図書館の活用を進める。

(13) 保護者・地域との連携

- ① 学級・学年・学校だより等の発行、学校ホームページによる情報発信に努める。
- ② 保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした教育の推進を図る。
(終日学校開放日、PTAとの連携、地域人材の活用、地域貢献活動)

1 全体評価

- ・52の評価項目の内、49項目において、肯定的評価〔A（とてもそう思う）＋B（そう思う）〕が80%を超えている。（R1は51項目中、49項目）
- ・最頻値については、全52項目中、Aが26項目であった。（R1と同じ）
- ・否定的評価〔C（ややそう思わない）＋D（そう思わない）〕の割合が比較的高かったもの（20%を超えたもの）は、「Ⅱ学校運営について」の中の「あなたは校務支援システムを十分活用できていますか」と「特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている」の2項目であった。（R1は「特別支援教育の体制」と「地域人材や施設の活用」の2項目）
- ・昨年度3月からの長期臨時休業や、その後の感染症対策のため、各種行事や大会等が中止または内容の縮小を余儀なくされ、そのことが評価結果に反映されている。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none">・全7項目、全てが肯定的評価80%以上となった。・A評価の割合が高かったものは、「学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」だった。学校経営方針を明確に示し教師の意思統一が図られていることがうかがえる。・過去2年間より、A評価の割合が増えた項目が6項目あり、特に昨年度の課題であった「学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。」については、A評価が約11ポイント増加した。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・学校教育目標や学校経営方針に基づいた教育活動が展開されていると捉えることができる。今後も、生徒や地域の実態を正確に把握し、育成すべき資質能力を明確にした上で教育活動を行っていく必要がある。そのうえで、職員一人ひとりが各自の目標達成を意識し、P→D→C→Aサイクルを活用した教育実践を行っていききたい。・職場の福利厚生や健康管理への回答は昨年度から大きな変化はなく、職員の多忙化改善は喫緊の課題といえる。来年度は各行事の精選、職員会議の回数の削減、PTA組織の改編や活動の焦点化などに取り組む予定である。今後はさらに、校務支援システムの勤務時間管理を活用した職員の意識改革を行うなど、多忙化改善計画に則った取り組みを継続的に行う必要がある。

Ⅱ 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全11項目の内、9項目が肯定的評価80%以上となった。(R1は10項目中9項目) ・A評価の割合が高かったものは「校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備保全)している」と「個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」「職員会議に積極的に関わっている。」「他の職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。」「職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」である。 ・A評価が低かったものは、新しい設問の「校務支援システムを十分活用できていますか。」と「あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。」「あなたの学校は、適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている。」であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌についての肯定的評価(A+B評価)は昨年度と同等だった。今後も、職員個人への負担の偏りが無いよう校務分掌の平準化に努めるとともに、「チーム学校」として職員相互の協働体制を構築し、多種多様な教育課題に対応していく必要がある。 ・本年度は感染症への危機感から、職員の危機管理意識が高まったといえる。学校が子どもたちの生命と健康を守る場所となるよう、今後も続く感染症対策はもちろん、危機管理マニュアルに基づいた防犯や防災、学校事故防止に全職員で取り組んでいきたい。 ・「チーム学校」として職員が組織として機能するためには、職員間の風通しをさらに向上させ、些細なことでも相談できる態勢を整えていく必要がある。今後も、職員同士が日常的に情報交換を行い、信頼関係を深めて教育活動を行っていく必要がある。 ・多様な特性を持ち支援を必要としている生徒が年々増加しているなか、特別支援教育の体制や機能に不足を感じている職員がいる。今後もコーディネーターを中心に、校内の担当職員同士の打ち合わせや全校での情報交換等を行い、個々の生徒にきめ細かく対応していく必要がある。 ・校内研修への関わりについて、A評価は伸びたものの全体的な肯定的評価(A+B評価)は大きく下がった。今年度は長期の臨時休業があり、特別な教育課程・日程のなかで授業がすすめられたため、研修にかける時間が少なくなった面がある。今後は職員の資質向上へ向け、計画に基づいた校内研修の充実に取り組んでいきたい。 ・校務支援システムについては、本年度が導入初年度であることから、職員が操作に不慣れだったり、予想外のシステム上の課題があったりするなどしたため、十分活用できたと答えた職員の割合が少なかった。校務支援システムは職員の多忙化改善に資するものであり、今後は、システム上の課題を改善すると共に必要に応じて職員の研修を行うなど、十分に活用できる体制づくりを行っていきたい。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用アンケートも含めて）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全項目が肯定的評価80%以上となった。また3項目で最頻値がAとなった。「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」の項目では、肯定的評価が10ポイント以上上昇した。一方、肯定的評価が5ポイント以上下がった項目が3項目あった。 ・A評価の割合が高かったものは「あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。」 「あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。」だった。 ・道徳についての質問項目「あなたの学校では、計画的に道徳の時間が実施され、心に響く授業が行われている。」は、昨年同様、高い肯定的評価となった。 <p>※生徒アンケートより</p> <p>④ 学校の授業は楽しいですか… A40%(前年比+6)、B49%(前年比-1)、C12%(前年比-2)、D3%(前年比-1)</p> <p>⑤ 先生はよく勉強を教えてくださいか… A62%(前年比+5、H28年度比+22)、B36%(前年比-4)、C3%(前年比±0)、D0%(前年比±0)</p> <p>⑥ 国語の授業の内容はわかりますか… A52%(前年比+14)、B40%(前年比-9)、C8%(前年比-3)、D1%(前年比-1)</p> <p>⑦ 数学の授業の内容はわかりますか… A48%(前年比+11)、B39%(前年比-8)、C11%(前年比-2)、D3%(前年比±0)</p> <p>⑧ 外国語の授業の内容はわかりますか…（新設問）A43%、B37%、C15%、D5%</p> <p>⑨ 人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか…（新設問）A37%、B33%、C25%、D6%</p> <p>⑩ 字をていねいに書くようにしていますか…（新設問）A46%、B35%、C16%、D3%</p> <p>⑪ 授業中に発言や発表をしますか… A31%(前年比+3)、B34%(前年比+4)、C28%(前年比-4)、D7%(前年比-3)</p> <p>⑫ 学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか…（1年70分、2年80分、3年90分） A24%(前年比+2)、B42%(前年比+5)、C22%(前年比-8)、D13%(前年比+2)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの⑤「先生はよく勉強を教えてくださいか」において、A評価が14ポイント上昇し、肯定的評価も97%と好結果を得た。⑥・⑦・⑧の国語・数学・外国語の授業の内容についても肯定的評価が、それぞれ91%・86%・80%となっていて外国語は創甲斐教育指標を越えることができた。国語・数学についてもA評価は前年度比で上昇している。全体として肯定的評価を維持しているのは、校内研究組織を中心に授業改善に取り組み、生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める学習指導について実践的な研修を重ねてきた成果といえる。また職員同士が授業を見合うなど、全職員で授業力の向上に向けた取り組みを推進できた。今後も協働して研究する体制を推進し、生徒の確かな学力を育成していきたい。 ・「家庭学習」についての評価が、職員・生徒ともに上昇した。これは、下校前に家庭学習の準備をする時間「スタンバイ学習」を実践してきた成果といえる。今後はさらに、家庭学習と学校の授業を有機的に結びつけ、生徒自らが課題意識と学習意欲をもって家庭学習に取り組むよう授業改善を重ねていきたい。 ・いくつかの項目で肯定的評価が下がったのは、長期の臨時休業があったため、ゆとりのある授業を行えなかったことが原因だと推測できる。今後も、教育課程を計画通り展開することができるよう、授業時数の確保に努めていく必要がある。

IV 生徒指導について（児童生徒用アンケートも含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全8項目全てが肯定的評価80%以上となった。 ・A評価の割合が高かったものは「あなたは児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」と「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」と「あなたの学校では、一人ひとりを大切に、愛情と信頼に基づく生徒指導を行っている。」であった。特に「愛情と信頼に基づく生徒指導」については、A評価が昨年度に比べ13ポイント増加し、C・D評価はゼロだった。一方で、A評価が低い項目は、「不登校の生徒やふれあい教室へ登校している生徒に対し、多くの職員が関わり指導している。」であった。 <p>※ 生徒アンケートより</p> <p>① 学校は楽しいですか… A57%(前年比+3)、B34%(前年比-3)、C6%(前年比-1)、D3%(前年比+1)</p> <p>② いろいろなことを相談できる友達はいますか…(R1までは「困ったことがあったら相談できる友達がありますか…」) A56%、B39%、C5%、D1%</p> <p>③ 人が困っているときは進んで助けていますか… A56%(前年比+5)、B39%(前年比-4)、C5%(前年比-1)、D1%(前年比±0)</p> <p>⑪ 困ったことがあったら相談できる先生がいますか… A(&B)76%(前年比+4)、C19%(前年比-3)、D4%(前年比-1)</p> <p>⑭ 将来の夢や希望を持っていますか。 A46%(前年比+4)、B31%(前年比-2)、C14%(前年比-4)、D10%(前年比+3)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートにおける肯定的評価（A&B）は①91%、②95%、③97%、⑪76%⑭77%と高評価が続いている。これは「生徒指導は、学校教育の土台」と考え、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施して学級集団をアセスメントし、ルールとリレーションを意識した集団づくりを継続的に取り組んできた成果といえる。Q-Uの結果を生徒にフィードバックするために、結果を分析して必要な対応を検討してきたが、本年度はその検討が組織的に行われたとはいえない。対応策の検討を学級担任が一人で行うのではなく、学年所属職員で検討会を実施する必要がある。そのうえで、生徒一人ひとりに応じた指導、自己肯定感・自己有用感を持たせる指導、生徒が自発的かつ主体的に自己を成長させていく過程を支援する指導を実践的に行っていきたい。 ・「問題行動（いじめ・不登校）の早期発見・早期対応」について、職員の肯定的評価（A+B評価）は高い水準を維持している。いじめの早期発見・早期対応を徹底するため毎学期実施している「たつこの相談表（生徒いじめアンケート）」や、職員で情報を共有し組織的な対応を行うことを継続的に行ってきた成果といえる。今後も、いじめや不登校を未然に防ぐ学校づくりを推進しながら、早期発見・早期対応・組織的な対応を継続していきたい。 ・職員の「生徒指導上の課題に対する課題の共有」については、A評価はやや上昇したものの、全体的な肯定的評価は低くなった。生徒指導上の課題に学校が組織として対応するためには、職員の情報共有・共通認識は必要不可欠である。今後も、生徒指導部会を軸とした課題対応を行いながら、全職員の共通理解を徹底し、組織的な対応を行っていく必要がある。 ・全国や全県と同様、本校でも不登校生徒は増加傾向にある。そうしたなか、不登校生徒や別室登校している生徒に対し、多くの職員が係りを持っていないとの評価結果となった。昨年度から、いわゆる県「不登校」加配の職員がいなくなり、コーディネートする専属教員を配置できなくなったことが大きな要因ではあるが、今後は生徒指導支援部会を中心に組織的な対応を行い、担任が一人で抱えることがない体制づくりを行っていく必要がある。

V 地域との連携について（児童生徒用、保護者用アンケートも含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全8項目の肯定的評価が80%以上となり、90%以上は5項目となった。特にA評価が高かったのは「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」だった。 ・一方でA評価が低かったのは、「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」であった。 <p>※ 生徒アンケートより</p> <p>① だれとでも挨拶していますか…（R1までは「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」） A60%（前年比-1）、B32%（前年比+2）、C7%（前年比+1）、D1%（前年比-1）</p> <p>② 今住んでいる地域の行事に参加していますか… A40%（前年比+12）、B31%（前年比-15）、C20%（前年比+2）、D10%（前年比+2）</p> <p>※ 保護者アンケートより</p> <p>④ 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる… A11%（前年比+5）、B73%（前年比±0）、C12%（前年比-4）、D2%（前年比±0）、E3%（前年比-1）</p> <p>⑤ 学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う… A9%（前年比+5）、B68%（前年比+5）、C10%（前年比-5）、D2%（前年比-1）、E12%（前年比-3）</p> <p>⑥ 授業参観や学校開放日などは子どもの様子を知るよい機会となっている… A10%（前年比-6）、B64%（前年比-6）、C13%（前年比+5）、D2%（前年比+1）、E12%（前年比+8）</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、長期の臨時休業や感染症対策で、保護者が学校の様子を直接参観できる機会がほとんどなかったため、評価結果は相応のものとなっている。そのなかで、学校・学年・学級だよりや学校ホームページを活用して、少しでも本校の教育活動を知ってもらい取り組みを行ってきた。これらの取り組みの成果が、職員と保護者からの肯定的な回答となってあらわれている。今後も、これまでの取り組みを継続しつつ、社会に開かれた学校教育の実現に努めていきたい。 ・本年度は職場体験を実施することができなかったが、生徒会が中心となり、これまでお世話になった職場に「手作りマスク」を贈るなど、地域とのつながりを深める「今年ならではの」の活動を行うことができた。今後も前例にとらわれることなく、「今できる地域との連携」を模索していきたい。 ・今後は新学習指導要領にある通り、よりよい学校教育を通してよりよい社会をつくるという理念を学校と社会とが共有し、学校と地域保護者が一体となって子どもたちの成長を支えていく必要がある。地域連携会議や学校評議員会、PTA学校委員会、学年学級懇談会などを通して、学校・地域・保護者が連携協働し、地域人材の積極的活用や、生徒が地域に出て活躍する場の設定などを実現させていきたい。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8項目で7項目が肯定的評価80%以上となった。また7項目において、前年度に比べA評価が上昇した。 ・ 最頻値がAとなったのは7項目、Bが1項目となった。 ・ 特にA評価の割合が高かったのは、「生徒が修学旅行や校外学習に進んで取り組むよう、指導に努めている(A68%)」と「あなたの学校では、生徒と教師が一緒にいろいろな活動に取り組んでいる(A71%)」であった。 ・ 昨年度A評価が低かった「少人数やTTの指導などきめ細かな学習指導により、生徒の学習意欲が向上している」は、27%から41%に上昇した。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の学校経営方針の重点項目である「心を耕す読書活動」「保護者・地域との連携」「学校生活をより豊かにする体験的活動を展開する」や、生徒の努力目標の「あいさつ」、生徒指導の基盤となる「生徒と教師の信頼関係」「師弟協働」等に対する職員の自己評価が高くなっていることは、これまで継続的かつ重点的に取り組んできた成果だと言える。 ・ 「少人数やTTの指導などきめ細かな学習指導による学習意欲の向上」のA評価が、昨年度より上昇したのは、職員が組織的に生徒一人ひとりへのきめ細かな指導体制を継続してきたことによる結果である。今後も、生徒の学びに向かう力・人間性を向上させる具体的な取り組みを行い、学力向上を図っていきたい。 ・ 本年度は例年のような学校行事を行うことはできなかったが、そのなかで、どうすれば学校行事をおこなうことができるか、職員と生徒が知恵を出し合い工夫して行事に取り組んできた。先を見通せない中ではあるが、今後も「行事を通して生徒を育てる」観点を大切に、豊かな体験的な教育活動を展開していきたい。
3 まとめ <成果> <p>アンケート結果は、肯定的な回答が多く、概ね満足できる結果であった。職員は、感染症対策のため活動内容が制限された状況下で「今できること」を着実丁寧に行ってきた。そうしたなか、本年度は「家庭学習（スタンバイ学習）」への取り組みを全校体制で始め、職員はもちろん、生徒・保護者の意識や取り組みにも変化が出てきているのは大きな成果と言える。</p> <p>今後も、全職員が学校教育目標の具現化に向けて、学校経営方針に基づいて共通認識・共通理解をして教育活動にあたっていきたい。</p> <課題> <p>校務支援システムの有効活用、ゆとりある教育課程の実現、組織的なQ-U分析と検討会の必要性、特別支援教育や不登校生徒への組織的な指導体制の構築、職員の校務分掌の平準化などについて改善の余地があることが確認できた。また保護者は学校に対し、一人ひとりの学力向上にむけた学習指導の充実や、授業参観や学校開放日などの実施を求めていることも把握できた。生徒においては、将来の夢や希望を持っていると答えたのは77%で、キャリア教育のさらなる充実が求められている。</p> <p>また、アンケートの中にはC・D評価が少なからずあることから、今後も全体の傾向だけを見て判断せず、職員や生徒一人ひとりに目を向け、保護者や地域の声に耳を傾け、なぜCやDと評価したのか、しっかり分析を行い丁寧な対応を行っていきたい。</p>	